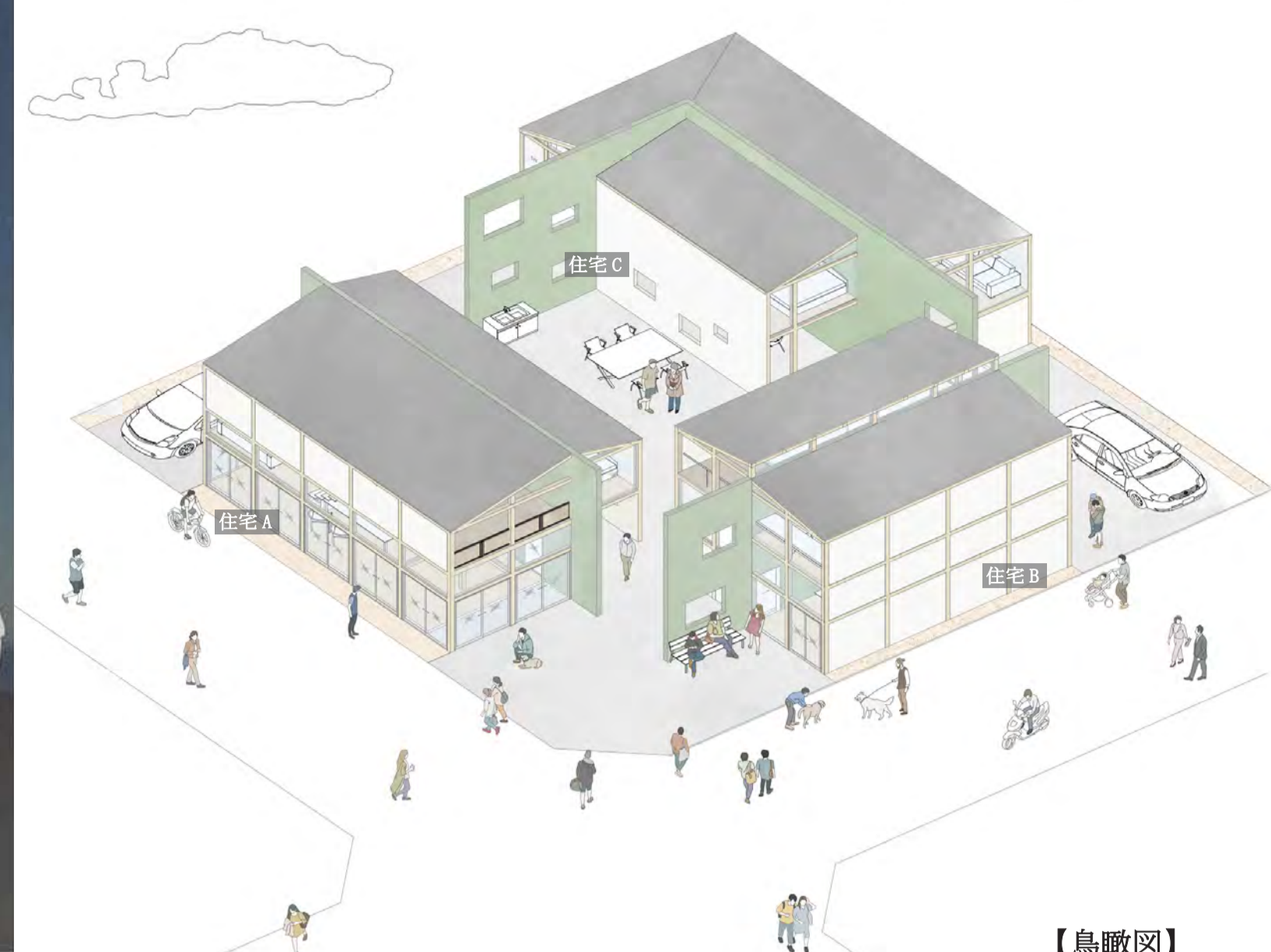


壁に寄り添いあい、街に開かれた住まい

大壁によって3棟は何処か繋がりを感じながらも、お互いに生活を干渉することなく様々な人が迷路のように入り込みたくなるような街に開かれた広場のような建築が生まれる。



住まいによって包み込まれ、照らされた大壁（緑壁）が街を照らす。



【鳥瞰図】

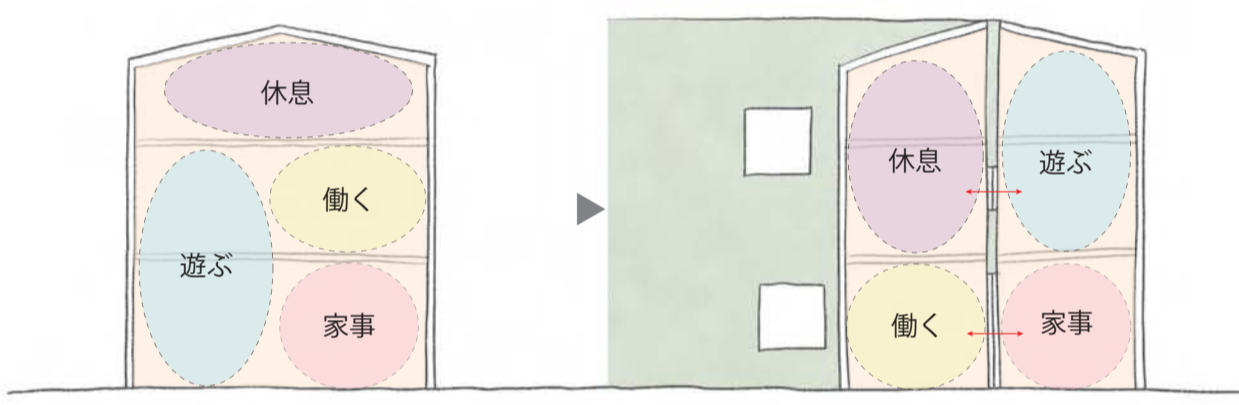
01. 提案 | 職住融合の緩衝材となる大壁（緑壁）

現在、コロナ禍により率先してテレワークを選択する企業や人が多くなってきた。しかし、人の行動が変化しても、住まいを変えることは容易ではない。というのも、従来の住宅ではドアを開けるとすぐそこにはプライベートな空間が広がっていて、そこに『働く』ことを許容することが難しいからだ。

たとえ『働く場』を住まいに持ってこれたとしても、「仕事とプライベートの切り替えが難しい」や「周りの音が気になって作業に集中できない」といった問題点などが出てくる。そしてそれらを防ごうと『働く事』と『住む事』をはっきりと分断すると、家族の気配や繋がりが感じられない閉ざされた住まいが生まれる。

従来の住宅は『家事』『仕事』『遊び』がすべてひとつの住まいの中で完結しているため、家族がそれぞれストレスを感じやすくなる暮らし方になっていると考える。

そこで以下の図のように、ひとつの住まいにいろいろな要素を集約するのではなく、大壁を介して、機能を分けつつも、家族や街とを繋げる住宅を提案する

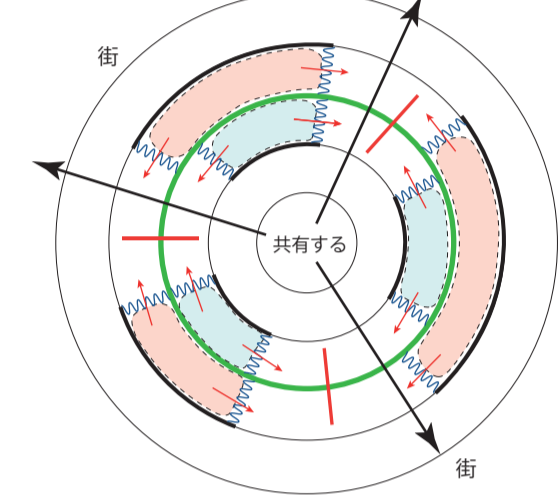


いろんな要素がひとつの住まいの中で完結された従来の住宅プラン

大壁によって住まいは分かれ、壁に開口部や窓などを設けることにより、この大壁を介して家族の気配や繋がりを、また落ち着く場も生まれる

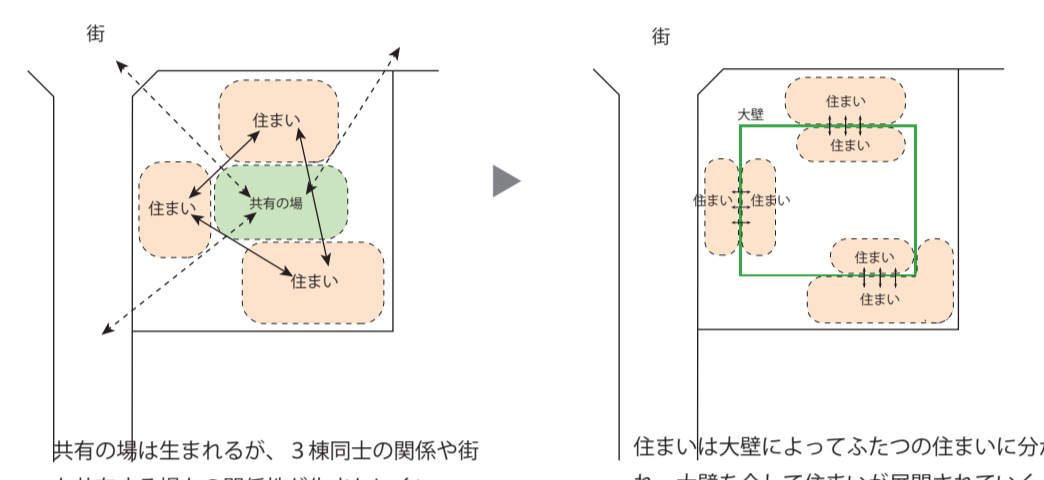
02. 設計ダイアグラム | 3棟の暮らしに干渉せずに街へと視線が抜ける

■コアイメージ



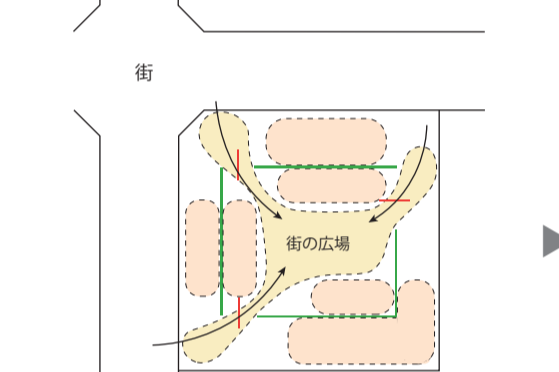
〈同心円状に住まいが街へと広がっていくイメージ〉

1. 3棟だからこそ生まれる豊かな共有の場
2. 住まいを横断するような「3棟の住宅を繋ぐ」高さ6600mmの口の字の大壁を設ける



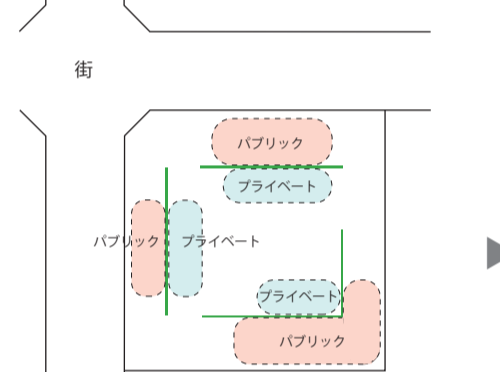
共有の場は生まれるが、3棟同士の関係や街と共有する場との関係性が生まれていく
住まいは大壁によってふたつの住まいに分かれ、大壁を介して住まいが展開されていく

3. 大壁を街に開放するように3つに分ける



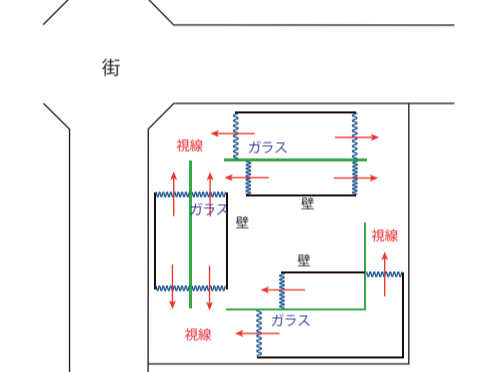
住人以外の人のアクセシビリティを高め、街に開かれた建築が生まれる

4. 街に面する方がパブリック、3棟に面する方をプライベートのゾーンに分ける



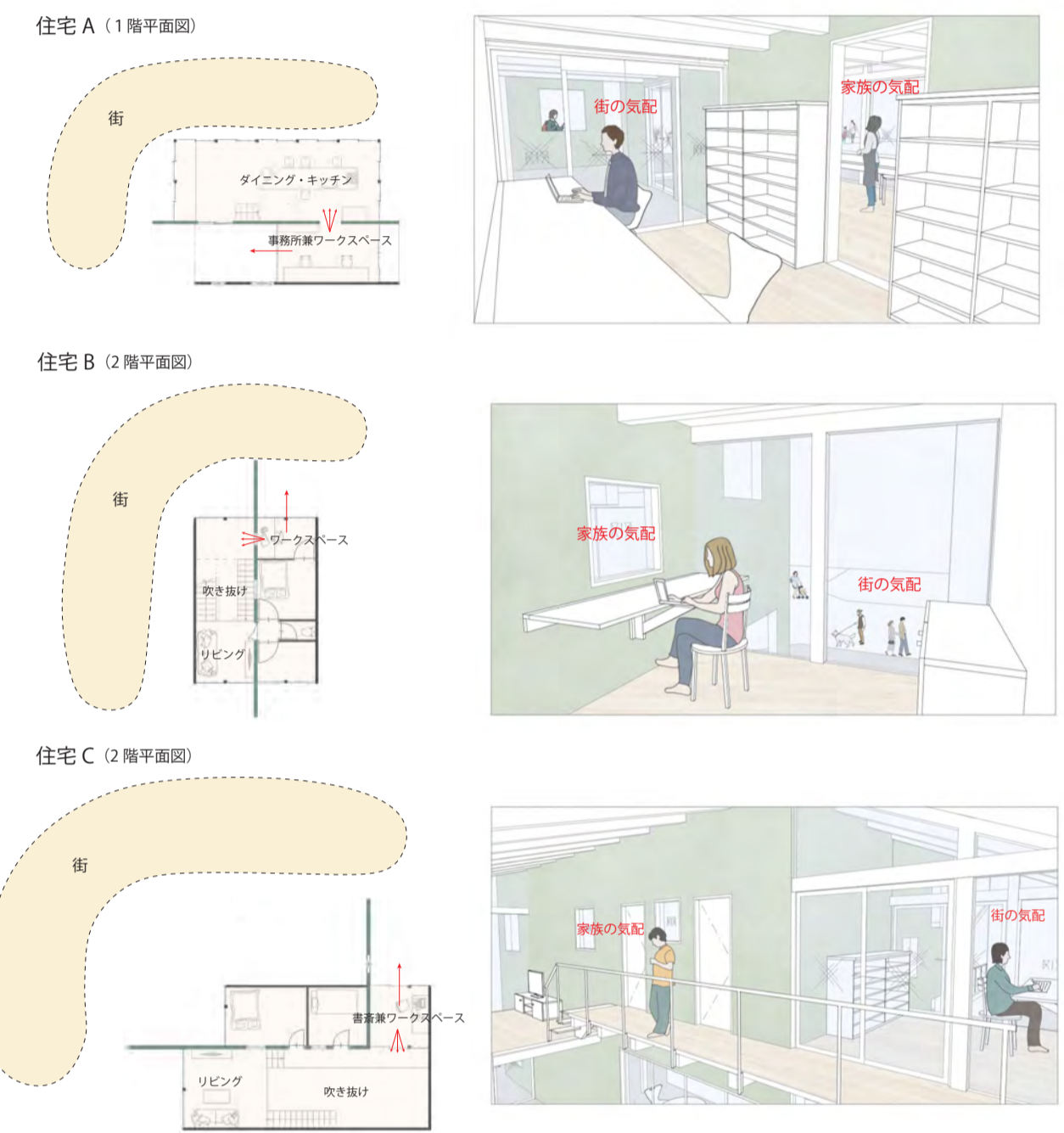
ふたつの住まいが横断する大壁により、ふたつの異なる住まい方になる

5. 大壁に平行するように壁を設け、大壁に直行するようにガラスを設ける



3棟が互いに視線が交錯することなく、プライバシーが確保されながらも、街に視線が抜ける

03. 職住融合 | 大壁を介して家族の気配も街の気配も感じられるワークスペース



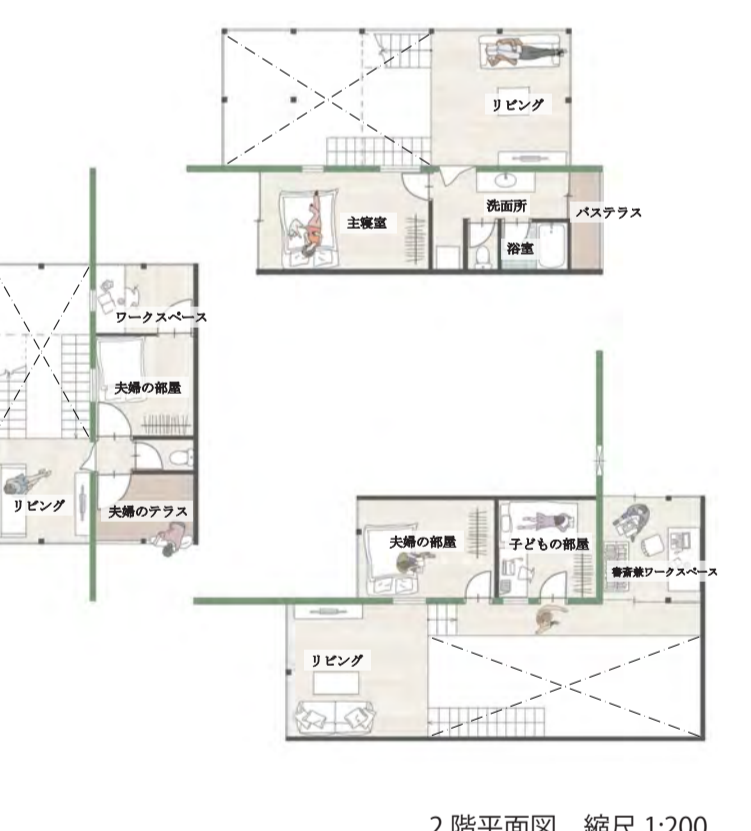
04. 平面図 | 住まいが壁にまわりつき、壁を介して生活が内外に広がっていく



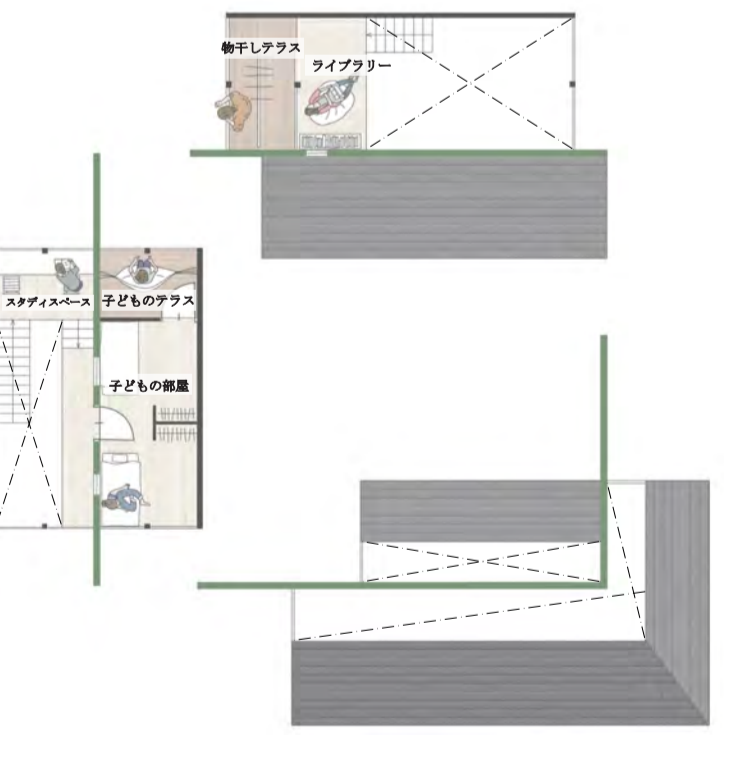
【住宅A】
【家族構成】
・夫婦2人
→夫婦で建築事務所を運営している
【住まい方】
事務所兼住宅なので、街に開かれ、人のアクセシビリティを高めるような住まい

【住宅B】
【家族構成】
・夫婦2人
・子ども2人
【住まい方】
子ども2人が中学生にもなり、夫婦と子どもの住まいを曖昧に分けた住まい

【住宅C】
【家族構成】
・夫婦2人
→夫が小説家
・子ども1人
【住まい方】
夫が小説家でもあり、ストレスも溜まりやすく、落ち着いた空間でかつ開放感のあるような住まい

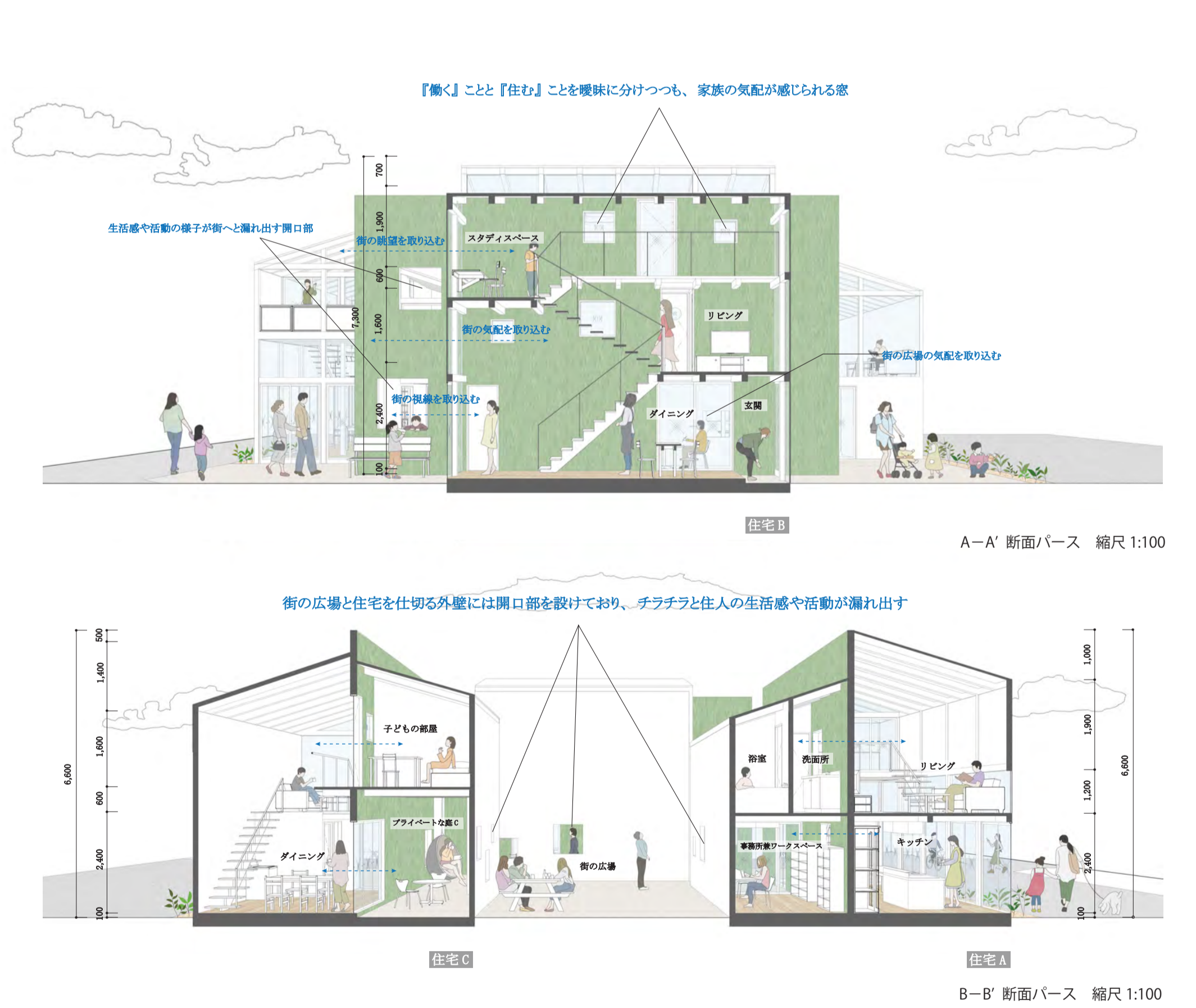


2階平面図 縮尺 1:200



3階平面図 縮尺 1:200

05. 断面図 | 大壁によって、街に開くような視線、広場に関する視線、『働く』『住む』の空間を分けつつも、繋げる効果などが生まれる



06. シーンパース | 住まいを横断する大壁が多様な視線、気配、空間、活動、場所を創る



住宅Aの主寝室の様子。大壁に沿うように視線が街へと抜けていく。

住宅Cのキッチンから眺めた。大壁によって、街の気配、家族の気配、広場の気配も感じられる。

街の広場の様子。映画鑑賞会やイベント行事など街の公民館のような機能をもつ空間となっている。